みなみけの日常を淡々と描いたオリジナルです。

霧姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
みなみけの日常を淡々と描いたオリジナルです。

【Ｎコード】
Ｎ２６６０ＢＡ

【作者名】
霧姫

【あらすじ】
この物語はみなみけをオリジナルで少し違う、けれど同じような感覚で描いて行きたいと思います。

最初の内はコメディ系が薄いですが、
第３話くらいにはバンバンと出していくので皆さん温かい目でみてください。
ちょっと場違いな所？での説明失礼しました。
それではみなみけの少し違う世界をお楽しみください♪

新住人登場！

※みなみけ原作を元にオリジナルで描きます※
この物語はみなみけの日常を淡々と描いたオリジナル作品です。過度な期待はしないでください。
あと、部屋を暗くしすぎないよう、画面から離れてみやがってください。
作者さんが誤字脱字、意味不明な発言をたまにしやがりますので注意してください。

千秋
『それではみなみけスタート！』

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

夏奈
『なぁ春香、今日隣に引っ越してくる人って確か今日だったよね？』

春香
『ええ、そのはずだけど…こんなに朝早くは流石にないわね。（汗』

千秋
『そうだぞバカ野郎、まだ朝の7時だ。もう少し大人しくしてろよバカ野郎』

夏奈
『っ！？』

千秋
『…どうしたバカ野郎、生憎お前に構ってる暇は無いんだよ。』

夏奈
『朝だけで3回もバカって言われたらそりゃあ反論するでしょうっ！』

千秋
『・・・・』ジー。

夏奈
『な、なんだよ！』

千秋
『どこかバカじゃない所を考えてたんだがいかんせん私は不出来な妹だよ。姉の良い所が一つも見当たらないよ』

夏奈
『なんだとー！』

千秋
『なんだ、やるのか！？』

春香
『止めなさい』二人の頭に軽くチョップ

千秋＆夏奈
『痛っ。ご、ごめんなさい』

春香

『わかればいいのよ♪さあ朝食にしましょ？』

千秋
『はい、春香姉さま』

夏奈
『ご飯♪ご飯♪』

春香
『ところで今日引っ越してくる人の名前って知ってる？』

夏奈
『確か、木滝なんとかだったはずだけど…』

春香『木滝さんねぇ…夏奈と同い年って聞いたから一応クッキーでも焼こうかな？』

夏奈
『賛成っ！』即答

千秋
『お前ただ食べたいだけだろう』

夏奈
『なら千秋は食べないんだ』

千秋
『っ！？い、いや…私は…』

夏奈

『安心しなよ、ちゃんと千秋のぶんも私が食べるからさ♪』

千秋
『バカ野郎～！（ふじおか投げ）』

夏奈
『☆あてっ！』

千秋
『食べるよ！食べるに決まってるだろうバカ野郎！』

春香
『クスッ。なら二人共クッキー作るの手伝ってね』

夏奈
『は～い！』

千秋
『わかりました、春香姉さま』

春香＆夏奈＆千秋
『ごちそうさまでした！』

春香
『さて、皿洗い先に済ませるから少し待っててね』

千秋
『春香姉さま、皿洗いお手伝いします』

春香

『ありがとう♪』

夏奈
『私はクッキー作る時に呼んでくれ。ちょっと漫画呼んでるから。』

春香
『わかった♪』

ーーピンポーンーーー

夏奈
『はいは～い！』

春香
『夏奈のお友達かしら？』

千秋
『春香姉さま、それは無いと思います。昨日は明日の為に早く寝ると言って私も強制的に寝かされましたから』

春香
『あら、そうだったの？』

千秋
『はい♪』

夏奈
『春香、千秋！聞いて驚け！新しいお隣さんだよ！』

木滝
『お、お邪魔します。今日から隣に住むことになりました木滝です。あ、これ良かったらどうぞ…』

春香
『わざわざすみません。今時間ある？もし良かったらクッキー焼くから食べない？』

木滝
『えっと…まだ部屋が……それに僕一人なので…』

春香
『一人暮らしなの？そうとは知らずにごめんなさいね』

木滝
『いえ、部屋の掃除が終わったら上がらせていただきます』

夏奈
『私手伝ってくるから春香、千秋クッキーの方よろしくっ☆』

木滝
『え？いえ、一人でも…』

夏奈
『私が女だからって甘く見て貰っちゃあ困るねぇ！いいよ、そこまで言うなら私の力を見せてやろうじゃないか！』
バタバタ。ガチャ

木滝
『……』

え？ついて行けない……

千秋
『木滝さん始めまして、私の名前は千秋です。不出来な姉ですみません』

木滝
『え？あ、うん始めまして。』
千秋さん？も苦労してるんだなぁ

千秋
『ところで漫画本とかは持ってるんですか？』

木滝
『え？うん結構持ってるよ！』
自己紹介の前に何でこんな会話してるんだろ…

千秋
『なら早く部屋に行った方がいいです！』

木滝
『うん。よくわからないけどありがとうございます。』
ぺこりとお辞儀して今日からお世話になる自分の部屋に向かう。
考えてみたら一人暮らしってのは初めてだ。
なんで今日から一人暮らしになるかと言えば簡単な話で親が海外に仕事しに行った。
なんでも2年弱くらいは滞在するらしく母と予定では僕もだったけど自分から断って一人暮らしになったのだ。
なぜか家ではなく今日から此処にお世話になるのを不思議に思って聞いたら一軒家より安く、そのほうが周りの人からよくしてもらえ

るからだと断言された。

木滝
『ただいま～あ？』
なんだろ、あのタワーみたいに立ってるのは…
え～と、漫画本？

夏奈
『あ……こ、これ借りても？』

木滝
『え？それ全部！？べ、別にいいよ』

夏奈
『ありがとう！ならこれちょっと置いてくるね』
バタバタ
夏奈：ただいま～！
春香：あら早かったわね…って部屋のかたずけしないで何してるのよ！
千秋：ほんとうにどうしようもないバカ野郎だな
夏奈：ごめんよ～！今からまた行ってくる！

夏奈
『ごめん、待った？』

木滝は首を横に降って否定した。
なんでだろう…ついて行けない。

ーーー3時間後ーーー

夏奈
『終わったぁ～』

木滝
『ありがとうございました。えっと…』

夏奈
『ん？あ～、私は南夏奈、よろしく！』

木滝
『夏奈さんですね。よろしくお願いします』

夏奈
『うちに敬語使わなくてもいいよ♪それより早く私ん家行こ！腹減ったー』
気がつけば時計の針は11時30分を指していた。

木滝
『はい！』
なんだかわからない事だらけだけど、
なんでだろ…とても楽しいって思うのは…

夏奈
『ただいま～』

木滝

『お邪魔します』

春香
『お疲れ様♪おやつの時間には早いからお昼にしましょうか』

木滝
『すみません何から何まで…』

春香
『いいのよ、うちはそんなに豪華なのは作れないけど一人で食べるより皆で食べた方が美味しいでしょ？』

木滝
『っ！？は、はい。』
一瞬ドキッとしちゃった。

千秋
『春香姉さま、どうせなら夕飯も一緒に食べたいです』

春香
『そうね、なら午後は買い物しましょうか。』

夏奈
『やった～！』

木滝
『あ、ありがとうございます』

この後、昼食を食べながら軽く自己紹介をして、１３時頃に買い物

に行った。
帰ってきたら15時を少し過ぎてたが、おやつの時間には変わりない！と夏奈ちゃんが言って、僕と千秋ちゃんが便乗し、皆で笑った。
春香さんがクッキーを温め直してくれたので作った時と変わらずにできたて感覚で味わえた。
その味と食感はかなり良く、お店に出したら絶対に評判になると思えるほどに美味しいバタークッキーだった。

ちなみに夕飯はちゃんこ鍋でした。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2660ba/

みなみけの日常を淡々と描いたオリジナルです。

2012年1月6日20時45分発行